

第5回 ボランティア分科会

日時：平成29年11月29日（水） 9：30～10：30

場所：ケアポートみまき 研修室

参加者：CP よしだ 渡部 彰夫・若槻 美佳

CP みまき 西澤 唯治・伝田 成子・小山 和子・小林 敏江

CP 庄川 山田 和美・品川 裕美

助言者：身体教育医学研究所 朴 相俊

1. 交流会の振り返り

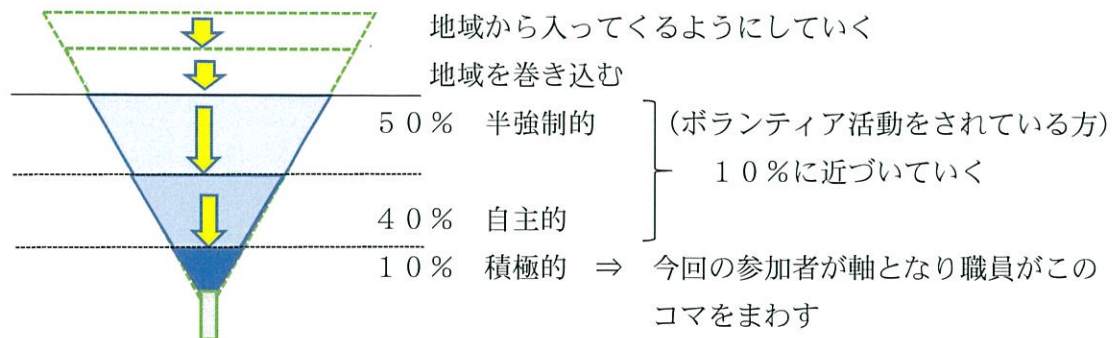
- ・講義が勉強になり、ボランティアの方々の意識を高めることができた。
- ・横のつながり・顔の見えるつながりが大切。
- ・施設側からの仕掛けが必要。情報発信することで自分にあったものが見つけられる。
- ・それぞれの地域性もあるため、それぞれの施設でその土地に合ったものを考える。
- ・世代が変わってきており、次につなげることが大切。
- ・講義内容のキーワードがワークショップのキーワードにつながっている。
- ・受け入れ窓口の大切さを実感した。
- ・『ボランティアは、自分たちのためになる』という言葉がボランティアの心に響いていた。
- ・今後の不安への課題。
- ・ボランティアの方々は職員と話したいと思っている。
- ・施設側が求めているもの・ボランティア側が求めているものをはっきりとさせる。
- ・ボランティアの組織化→横のつながりをつくる。
- ・魅力ある活動にしていく。
- ・今回参加したボランティアの高まった意識が一過性にならないようにする。

参加したボランティアが核となり、起爆剤となる

地域へ広げ、人への影響力となってもらおう。

意識が高いうちに広めていく。

存在価値を付けていく。





2. ボランティアの活性化に向けての取り組み（発信）

・砺波市の『シニア元気あっぷポイント』の65歳以上を対象にした取り組みは、きっかけづくりになっている。法人独自のポイント制も1つではないか。

有償ボランティアはこれからの世代にとって必要ではないか？有償に対して庄川の地域性として受け入れにくい面もあるが、ポイント=有償を否定的ではなく、前向きに捉える。

・（よしだ）小規模多機能自治が広まっており、小学校区単位での組織の中で、福祉部会というものがあり、そこと連携していく。

・長野県の沓掛（あおき）村での取り組み

住民支え合い事業→活動内容・時間・金額を明確にして地域の中で支え合っていく。

社協がコーディネートしている。

活動に対する保険を地区で入っている。

大きな問題もなく8年間行われている。

・昨年の調査で上がったアクションプランの1つとして交流会を行なったが、今回のような大掛かりなものは毎年できないが、今後は施設の取り組みとして行なっていく。

3. ボランティア分科会のまとめ

・今後は自分たちで何ができるかを明確にし、それぞれの施設で課題に取り組んでいく。

・みまき→ボランティアに関しては事業計画に組み込んでいき、事業化していく予定。

組織化も検討。

・庄川→ボランティア委員会を設置したので、今後の取り組みについては委員会で検討していき、取り組んでいく。

・会員証について

スリーポートで共通の会員証を作ってはどうか？

→みまきは今後組織化を経たからの取り掛かりになる。今の段階では難しい。

特典には交流会や食事会への参加、ボランティア新聞の送付など。

会員証にはシンボルやスローガンなどを付ける。

*集団行動を起こす3つの条件

①会員証（シンボル）… ゴールドカードなどグレード分けも良。

②歌

③スローガン

・分科会のまとめ方について

今回の交流会の様子を文字化する。

去年と今年の取り組みをふまえて、今後のビジョンを示す→図式化

<H28年度>

ボランティア実態把握

ヒアリング調査

現在の課題

8つのアクションプラン

ボランティア参加者間の交流

施設とボランティアの
定期的な意見交換

移動手段支援

ボランティア養成講座

ボランティア活動の見える化

職員の心理的配慮・職員研修

ボランティアと入所者の交流

出前活動報告会

<H29年度>

課題の検証

ボランティア交流会
10月:みまき 11月:庄川

ボランティア送迎(10月～)

ボランティアホームページの開設

スリーポート若手研修(9月)

<H30年度>

目指す取り組み

<ケアポート庄川>

- ① ボランティア委員会の立ち上げ
- ② ボランティア広報活動
秋のふれあい会などで
- ③ ボランティアと職員との交流会
- ④ 施設内調査(求めるボランティア)

<ケアポートみまき>

- ① ボランティアセンターの設置
(在宅総合支援センター内・専任職員配置)
- ② ボランティア委員会(推進プロジェクト)の立ち上げ

 - ・ ボランティアの在り方研究会
 - ・ ボランティア通信の発行
 - ・ ボランティアネットワークの確立(組織)

<ケアポートよしだ>

地域生活支援分科会の中で、シニア大学構
想案について検討中。

《結びに》

平成29年度のボランティア交流会及び分科会を開催するにあたり、多くのボランティア団体や関係者の方々、またスリーポートの方々には、お忙しい中ご尽力とご協力を賜り、誠に感謝申し上げます。

昨年の意識調査から浮彫となった新たな課題に対して、8つのアクションプランを打ち出し、今年度はそれらに対し取り組んまいりました。

まず1つ目が、ボランティア参加者間の交流活性化として2回の交流会を開催、2つ目として職員とボランティア参加者間の定期的な意見交換の場として、2回の交流会に施設職員も参加し意見交換を実施、3つ目としての移動手段支援は、施設での送迎を実施、4つ目の見える化としてホームページや広報誌を発行、5つ目として、ボランティアに対しての心理的配慮について職員が学ぶ機会を設けた。このように8項目のうちの5項目には、取り組むことができた。これは今後も継続する事こそ、法人の責務と考えています。

残り3項目については、養成講座や入所者との交流、地域における出前活動報告会については、今回参加して頂いたボランティアの方々を軸にさらに輪を広めながら話し合っていきたいと思えます。

全国に発信できるような具体的な方策を打ち出すことは出来ておりませんが、今後の活動として、さらなる発展を考えていきたいと思えます。また、このスリーポートゆめ・ひと・つながり塾の中で語り合った「シニア大学構想案」が、何かしらのヒントやきっかけになれば幸いです。